

ハ租アリ就中三百市場村ハ古時伊丹播磨守ノ治所ヲ建シ處ナリ領内ノ村ヲ併セ呼テ十組ト云古武鑑等 毎年開市商人競集リテ定栗價今尙例トス三日市爲第一小原爲第二他村ハ次第ニ低折ス大抵甲金拾兩ニ三拾俵但シ壹俵ハ三升併斗入りヨリ四拾俵ナリ打栗ハ蒸シテ去皮載木盤上下ニ竹皮ヲ藉テ以小槌打平ラヌ薄ク圓ナラシム大如小兒掌乾シテ聚十枚爲把十把爲一筐五把爲半筐或ハ兼大ナル筐アリ以售四方本州ノ名産トス味甜美ナリ今モ例年十一月府中藩鎮ヨリ獻之搗栗ハ灰汁ニ浸スコト一夕燒早稻爲灰目乾シテ搗テ去皮其形全而不毀ヲ善トス方言滋味久利ト云栗ノ種類甚多シ大ナルハ味劣レリ山中ニ生ズル茅栗ト云ハ細小ニシテ不充用

〔毛吹草〕三近江 栗本クリモトスグモ栗ノ葉ナリ土ノ下ニ埋レテ木ノ如クカダマ栗ノ當所ニハ薪ニ用之又香爐ノ灰ニ宜ト云

〔日本書紀〕九神功元年三月庚子武内宿禰出精兵而追之適遇于逢坂以破故號其處曰逢坂也軍衆走之及于狹狹浪栗林而多斬於是血流溢栗林故惡是事至于今其栗林之菓不進御所也

〔徒然草〕上因幡國に何の入道とかやいふもの、むすめかたちよしと聞て、人あまたいひわたりければ、此むすめたも栗をのみくひて、更によねのたぐひをくはざりければ、かゝることやうのもの、人に見ゆべきにあらずとて、おやゆるさゝりけり

栗雜載

〔常陸風土記〕行方郡提賀里○中北在香取神子之社社周山野地沃草木椎栗竹茅之類多生男高里○中有栗家池爲其栗大以爲池名 麻生里○中周里有山椎栗槻櫟生猪猴栖住當麻郷○中

有香取三神子之社其周山野櫟柞栗柴往々成林猪狼多住  
〔筆のすさび〕四一栗の大樹 備後の安田といふ所に栗の玄だれたるあり遠く見れば垂絲櫻のごとし高さは一丈許にてはたばり二畝許もあり栗毬多くつきて見事なりきとて外姪淺右衛門此頃圖して歸り示す

〔新撰字鏡〕木柞 正音子落反櫟也除草曰芟 櫛 志比 櫛 志比乃木

椎

除木曰柞奈良乃木又志比